

1522年「ぼろを纏った男」、マンレサでのイグナチオ・デ・ロヨラ



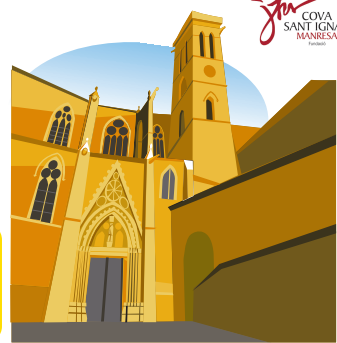
1.モンセラット
眠れない一晩を過ごした翌日、イグナチオ・デ・ロヨラは、自分が身に付けていたものを貧しい人にあげ、マンレサへと向かいました。
1522年 3月 25日の火曜日のことでした。



2.チャペルおよびクレウ・デ・ラ・ギア（ラ・ギアのチャペルおよび十字標）
祈禱のためにエルミータ・デ・ラ・ギア（ラ・ギアのチャペル）に立ち寄りました。
その日は祝日であったため、巡礼が行われていました。



4.旧聖ルシア病院
要塞の外にある貧しい人びとのための病院である聖ルシア病院に迎えられました。
ここで多くの時間を過ごし、貧しい人びとや病人を助けました。ぼろを纏い、身なりなど、まったく構うことはありませんでした。
人びとは彼のことを「ぼろを纏った男」と呼んでいました。
現在、そこにはカページャ・デル・ラプト（ラプトのチャペル）が建てられています。



エル・ラプト（ラプトとは、神の啓示を受けた状態のこと）
ある晩、病院のチャペルで気を失い、「神の啓示」を受け、8日8晩地面で身動き一つせずに過ごしました。その時に将来やるべきことを理解したのです。

6.カページャ・デル・ラプト（ラプトのチャペル）および
7.旧聖イグナチオ学校（現在の博物館）
聖ルシア病院およびそのチャペルは、スペイン市民戦争中の1936年に破壊されてしまいました。
現在そこには、壊された病院の石を使ってカページャ・デル・ラプトが建てられています。
その後方にある旧聖イグナチオ学校跡地には、現在博物館が建てられています。



8.ラ・コバ（洞窟）
瞑想し、祈り、著作を行うために過ごした洞窟の1つが、カルデネル川のほとりにあります。
現在、ここにはラ・コバ教会と国際信仰センターが建てられています。



9.ドミニコ修道士会修道院
当時、現在のサン・ドメネク（聖ドミニコ）広場には、ドミニコ修道士会修道院が建てられており、そこで何週間か過ごしました。ここでは、疑問がわき、あまりに意気消沈してしまったために、病気がかかってしまいました。

修道院は19世紀になくなり、そこには音楽院の劇場が建てられました。殉教者聖ペテロ教会は、スペイン市民戦争中の1936年に破壊されてしまいました。

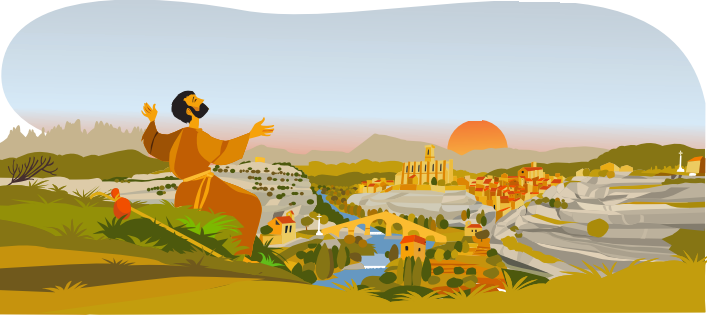


10.カページャ・デ・サン・イグナシ・マルト（病に倒れた聖イグナチオのチャペル）
アミガト家は、いつもスピカレットと呼ばれる建物に病気の人々を集め、助けていたお金持ちの一家でした。
2度におわってイグナチオ・デ・ロヨラを迎え入れ、看病しています。これは、ソブレロカ通り30番地に家を持っていたカニェルス家も行ったことでした。

このオスピタレットこそが、現在のカページャ・デ・サン・イグナシ・マルトで、マヨール広場のすぐそばにあるカルメン教会の階段の終わりに建てられています。



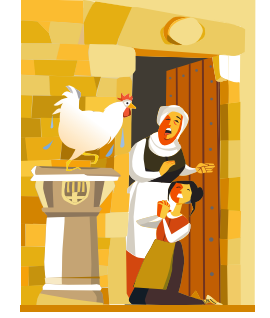
11. 聖クララ会修道院、クレウ・デ・ラ・クーリャ（ラ・クーリャの十字標）
12. ビラドルディス 13. 聖パウロ小修道院
ビラドルディスは良く訪れた場所です。そこに出かけて行く際には、聖クララ会修道院の前に座って修道士たちの歌声を聞いてから、クレウ・デ・ラ・クーリャに向かって主要道路をビラドルディスにあるサルット教会まで歩いて行きました。そこで祈りや瞑想にふけたり、幾晩も夜通し救いを求めたりしました。
また、カルデネル川のほとりにあるシトー会聖パウロ小修道院を訪れることもありました。聖ルシア病院の管理も行っていた小修道院長は、イグナチオの師でもありました。



14. ボウ・デ・ルムとエクシミア・イルストラシオ・デル・カルデネル（光の井戸とカルデネル川における素晴らしい照明）
聖パウロ小修道院に向かう途中で「カルデネル川における素晴らしい照明」が起こりました。彼自身の説明によると、超自然的に突然ひらめきが起こり、これによって多くのことが解明し、終に今後進むべき道が理解できるようになったと言います。
これらは、クレウ・デル・トルト（トルトの十字標）近くの「ボウ・デ・ルム」で起こったようで、この現象が起きた後に感謝を捧げる目的でこの場所を訪れています。



15. ラ・カサとクレウ・デル・トルト（トルトの十字標）
街の境界を示すこの十字標の脇には、聖イグナチオをよく迎え入れていた家、「ラ・カサ」があり、そこでは暖かい一杯のコンソメが振る舞われ、その時は暖かいお蔭が今もなお保存されています。1523年の2月の初めにイグナチオ・デ・ロヨラがマンレサを離れた際には、マルセデスからポント・デ・ピロマラ（ピロマラ橋）に向けて出発したのです。



16. エル・ボウ・デ・ラ・ガジーナ（ニワトリの井戸）
伝説
ソブレロカ通りにある井戸に、1602年に1羽のニワトリが落ちてしまい、溺れ死んでしまいました。
そのニワトリの世話をしていた女の子は、継母に怒られるのではないかと心配になり、聖イグナチオにニワトリを生き返らしてほしいと頼みました。
すると、伝説によれば、ニワトリは息を吹き返したということです。